

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23614005

研究課題名(和文)ヘリテージ化されるキリシタンと場所の商品化に関わる観光地理学的研究

研究課題名(英文)Geographical study on the catholic heritage and commodification of place in Japan

研究代表者

松井 圭介(MATSUI, Keisuke)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号：60302353

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円、(間接経費) 1,260,000円

研究成果の概要(和文)：平成23～25年度の3か年において得られた研究成果は以下のとおりである。

収集資料の分析と研究のフレームワークの提唱：理論的枠組みについて、その成果を著書(分担執筆)として刊行した。現地調査の実施：3か年にわたり、主要アクターに対するフィールドワークを実施した。研究成果の公開：研究成果は、国内外の学会において口頭発表するとともに、学術論文・著書の形で公開した。研究成果の社会還元：市民講座などの場において、研究成果の紹介・普及に努めた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we have been working on these tasks as follows:

1) Analyzing the data and presenting new methodology on this study field. 2) Conducting geographical field work on some of the important actors of Nagasaki Church Group. 3) Publishing some articles and books. 4) Returning research results to society.

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：観光学

キーワード：ヘリテージ キリシタン ツーリズム 商品化 巡礼

1. 研究開始当初の背景

宗教現象は古来、人間の観光行動と密接な関係を持っているが、わけでも聖地巡礼がもたらす観光流動の実態や、附随する観光関連産業の発展、地域の社会構造変化などのテーマは現代社会を読み解く上でも重要な課題である。観光促進による地域振興において、特別な意味をもつ場所としての聖地を観光資源として利用する動きが顕著にみられるが、こうした動きは、観光関連産業の進出といった社会経済的な変化にとどまらず、宗教文化、さらには当該地域社会そのものの変容をも招来するものといえる。

ある場所が観光地になるのは偶然ではなく、場所に施された仕掛けを読み解く作業が必要であるが、その際に「誰が」「どのようにして」「何のために」仕掛けているのかを明らかにすることが重要である。研究代表者は、これまで人文地理学、観光学、宗教社会学の研究者らとともに、宗教的聖地が観光化の進展とともに再編され、観光資源化されていく様態について研究してきた。申請者を中心とする科学研究により、これまでに「プロデューサー」に関しては、一定の成果を挙げた。一方、キリシタン文化のヘリテージ化および観光資源化が、「ホスト」の人々の生活にどのような影響を与え、また個人や集団のアイデンティティにどのような意味を与えたのかについては、従前の調査では明らかにできておらず、さらなる研究の深化が必要とされている。さらにはそこで「ゲスト」が果たす役割についても検証が必要である。

2. 研究の目的

本研究では、2007年1月に世界文化遺産暫定登録リスト入りをした「長崎の教会群」を事例に、長崎におけるキリシタン文化がヘリテージ化されていく過程を検証し、ヘリテージ化されたキリシタン文化が、長崎のロカリティとして商品化されていく動態を明らかにする。さらには、ツーリズムが地域文化や住民のアイデンティティの構築にどのような影響をもたらすのか、実証的に解明することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の3段階に沿って研究を進める。

(1) 宗教文化のヘリテージ化と宗教ツーリズムに関する理論的枠組の構築：ローカルな宗教文化のヘリテージ化と観光利用としての商品化に関わる観光人類学、社会学、地理学研究の研究成果を整理し、研究視点や概念、研究方法について検討する。

(2) ヘリテージ化されるキリシタン文化とホスト・ゲストの相互作用の解明：長崎におけるキリシタン文化のヘリテージ化とそれに伴う商品化の動態をホストとゲストの相互作用に着目して解明する。

(3) 消費されるキリシタンとアイデンティテ

ィの問題：ツーリズムによる宗教文化の商品化がホストのアイデンティティの構築にどのような影響をもたらすのか、実証的に解明する。

4. 研究成果

本研究では、2007年1月に世界文化遺産暫定登録リスト入りした「長崎の教会群」を事例に、長崎におけるキリシタン文化がヘリテージ化されている過程を検証し、ヘリテージ化したキリシタン文化が長崎のロカリティとして商品化されていく動態の解明に取り組みるとともに、キリシタン・ツーリズムが地域文化や住民のアイデンティティの構築にどのような影響をもたらすのか、実証的な解明を行った。

平成23~25年度の3か年において得られた研究成果は以下のとおりである。

(1) 収集資料の分析と研究のフレームワークの提唱：宗教の観光資源化にともなう聖地の変容に関する理論的枠組の提唱を宗教学者、人類学者、社会学者と協同で行い、その成果を単行本として刊行した(山中 弘編『宗教とツーリズム』、星野英紀ほか編『聖地巡礼ツーリズム』ほか)。

(2) 現地調査の実施：3か年にわたり、フィールドワークを実施した。長崎の教会群をめぐる世界遺産運動および長崎巡礼の主要アクターに対する聞き取り調査および、研究目的に沿った資料収集を実施した。

(3) 研究成果の公開：研究成果は、IGU(国際地理学連合)本大会(2012年:ケルン)、地域大会(2013年:京都)、都市地理学コミッション(2011年:カンタベリー,UK)や日本地理学会など国内外の学会において口頭発表するとともに、学術論文・著書の形で公開した(例えば、『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化-』(単著)、『Geography of Religion in Japan』(単著)など)。

(4) 研究成果の社会還元：東京都目黒区の市民講座(めぐろシティカレッジ)や本務校における高大連携事業などにおける研究紹介の場において、研究成果の紹介・普及に努めた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

久保倫子・益田理広・山本敏實・卯田卓矢・石坂 愛・神 文也・細谷美紀・松井 圭介、茨城県日立市における地域コミュニティと住民による東日本大震災後の防災対策、都市地理学、査読有、9、2014、58-71
卯田卓矢・石坂 愛・上野李佳子・矢ヶ崎太洋・松井圭介、常総市大塚戸町における一言主神社信仰の特性、地域研究年報、査読無、36、2014、139-167

益田理広・碓井達哉・川村一希・久保亮文・柳カイ・松井圭介、メンタルマップを用いた歩行回遊性評価ー茨城県常総市水海道地区を事例にー、地域研究年報、査読有、36、2014、35-54

松井圭介・兼子 純、大学院におけるフィールドワーク教育の実践ー筑波大学人文地理学・地誌学教室の事例ー、人文地理学研究、査読無、34、2014、107-125

Sato, D. 2014. Summering in Japanese hill stations: an analysis of villa ownership in modern Karuizawa. *Annals of Leisure Research*. 17:50-70. 査読有

呉羽正昭、人文地理学のフィールドワークにおけるデータ収集法の検討ーフィールドワークをめぐる関係構造に着目してー、人文地理学研究、査読無、34、2014、87-94

呉羽正昭、日本の観光地理学研究におけるフィールドワークに関する一考察、人文地理学研究、査読無、34、2014、95-106

Matsui, K., Kaneko, J., Hashimoto, A. and Oishi, T. 2013. Fieldwork Education Practice in Graduate Schools: A Case Study on Human Geography and Regional Geography Classes at the University of Tsukuba. *Tsukuba Geoenvironmental Sciences* 9:21-29. 査読有

Uda, T., Mashita, M., Hosoya, M., Jin, J., Kubo, T. and Matsui, K. 2013. Discussions on the regional characteristics of the Jodo Shinshu (True Pure Land Buddhism) association in the Kurobe River alluvial fan - A case study of Doichi, Nyuzen Town. *Tsukuba Geoenvironmental Sciences*. 9:3-11. 査読有

卯田卓矢・益田理広・金 錦・細谷美紀・久保倫子・松井圭介、黒部川扇状地における浄土真宗の講組織の構造ー入善町道市地区を事例としてー、黒部川扇状地、査読無、38、2013、88-93

佐藤大祐、学界展望(ツーリズム) 人文地理、査読有、65、2013、251-253

佐藤大祐、キリシタンと現代の教会巡礼ー長崎の文化層序と観光商品化ー、交流文化、査読無、14、2013、34-41

Kikuchi Toshio, Maruyama Shigenori, Inazaki Tomio, Kumaki Yota, Kureha Masaaki, Sano Osam, Sugai Toshihiko, Marui Atsunao. 2013. Introduction to the Special Issue on "Tokyo: Past, Present, and Future (Part I)". *地学雑誌* 122:913-915. 査読有 .

<http://dx.doi.org/10.5026/jgeography.122.913>

菊地俊夫・丸山茂徳・稲崎富士・熊木洋太・呉羽正昭・佐野 修・須貝俊彦・丸井敦尚、東京 過去・現在・未来 (Part

I)、地学雑誌、査読有、122、2013、916-920、<http://dx.doi.org/10.5026/jgeography.122.916>

[学会発表](計9件)

石坂 愛・卯田卓也・上野李佳子・矢ヶ崎太洋・松井圭介、参拝行動からみたニュータウン地区の特性ー常総市内内守谷町きぬの里を事例としてー、2014年日本地理学会春季学術大会、2014年3月28日、国土館大学

呉羽正昭、オーストラリアにおけるスキーリゾートの発展傾向ーチロル州・ゼルデンの分析を中心にー、日本スキー学会第24回大会、2014年03月18日、休暇村妙高(新潟県)

石坂 愛・卯田卓也・上野李佳子・矢ヶ崎太洋・松井圭介、茨城県常総市・一言主神社信仰の空間構造とその特性、2013年日本地理学会秋期学術大会、2013年9月28日、福島大学

Matsui, K. Discussion on the religious tourism in remote islands, Japan. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月8日. 京都国際会館

Maruyama, M., Jung, O. and Sato, D. Characteristics of Foreign Visitors to Unzen and the Competition among Summer Resorts in East Asia. Kyoto Regional Conference of IGU 2013年8月8日 京都国際会館

Mashita, M., Uda, T., Jin, J., Hosoya, M., Kubo, T. and Matsui, K. Nyuzen town. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月5日. 京都国際会館

Matsui, K., Kaneko, J., Hashimoto, A. and Oishi, T. Discussion on some aspects of fieldwork education through a case study of graduate school of the Univ. of Tsukuba. Kyoto regional conference. IGU2013 Kyoto regional conference. 2013年8月5日. 京都国際会館

Kureha, Masaaki. A discussion on field work in geographical studies on tourism in Japan. IGU2013 Kyoto Regional Conference. 2013年08月05日. 京都国際会館

Kureha, Masaaki. Changes in ski resorts through the development of inbound tourism in Japan: A case study of Niseko-Hirafu district, Hokkaido. IGU Pre-Conference Meeting of Commission on the Geography of Tourism, Leisure and Global

Change. 2013年08月01日. 立命館アジア太平洋大学(別府市)

〔図書〕(計6件)

Kubo, T., Yamamoto, T., Mashita, M., Hashimoto, M., Greger, K., Waldichuk, T. and Matsui, K. 2014. *Risk and Conflicts: Local Responses to Natural Disasters (Community, Environment and Disaster Risk Management, volume 14)*. Emerald Books. 278(11-42)

須山 聡 2014、『奄美大島の地域性 大学生が見た島ノシマのすがた』、海青社、359

Matsui, K. 2013. *Geography of religion in Japan: Religious Space, Landscape, and Behavior (International Perspectives in Geography)*. Springer. 199

高橋伸夫・菊地俊夫・根田克彦・山下宗利編(松井圭介)2013、『都市空間の見方・考え方』、古今書院、159(89-95)

人文地理学会編(呉羽正昭)2013、『人文地理学事典』(執筆項目:観光資源と観光開発)丸善出版、761(544-545)

井田仁康編(呉羽正昭)2013、『究極の中学校社会科-地理編』(執筆項目:チロルの景観:観光業と農業の共生)日本文教出版、227(88-89)

6. 研究組織

(1)研究代表者

松井 圭介 (MATSUI, Keisuke)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号: 6 0 3 0 2 3 5 3

(2)研究分担者

呉羽 正昭 (KUREHA, Masaaki)

筑波大学・生命環境系・教授

研究者番号: 5 0 2 6 3 9 1 8

佐藤 大祐 (SATO, Daisuke)

立教大学・観光学部・准教授

研究者番号: 2 0 4 0 5 6 1 6

須山 聡 (SUYAMA, Satoshi)

駒沢大学・文学部・教授

研究者番号: 1 0 2 8 2 3 0 2